

2015年度 決算説明会

DOWAホールディングス株式会社

2016年5月12日

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2015年度決算の概要

■ 連結損益計算書

単位：億円

	2014年度 実績①	2015年度				前年比増減 (③－①)	
		2/5予想②	実績③	増減 (③－②)			
売上高	4,642	4,100	4,065	△ 34	△1%	※ △ 576	△12%
営業利益	390	355	350	△ 4	△1%	△ 40	△10%
経常利益	420	350	350	0	0%	△ 69	△17%
当期純利益	265	210	218	8	3%	△ 47	△18%

※売上高の減少は、銀粉の一部取引を原料代を含まない受託加工へ変更した影響などによる

■ 決算のポイント

部 門	営業利益 前年同期比増減		主な増減内容
環境・リサイクル	△10億円	△14%	低濃度PCB増処理、土壌処理案件減、リサイクル・東南アジア減益
製錬	△2億円	△2%	円安、原料条件好転などによる増益効果はあるも金属価格は下落
電子材料	△7億円	△9%	銀粉は増販、LEDは在庫調整により減販
金属加工	△8億円	△15%	銅価下落および車載向け伸銅品減販による減益
熱処理	△10億円	△43%	国内、インドネシア、タイなどの需要低迷により工業炉減販

金属価格： ドル高や需要の減速懸念などを背景に全面的に下落

為 替： 概ね120円台で推移、第4四半期から円高局面となった

2016年度 連結業績の見通し

単位：億円

	2015年度 実績	2016年度 業績予想	比較増減	
売上高	4,065	3,850	△	215
営業利益	350	290	△	60
経常利益	350	290	△	60
当期純利益	218	200	△	18

円高の進行および金属価格の下落などにより、製錬部門を中心に減益となり

2016年度は営業利益・経常利益ともに290億円を見込む

2016年度 前提条件と感応度

感応度（営業利益/年）

単位：百万円

	前提条件	変動幅	感応度
為替	115.0 円/\$	±1 円/\$	380
銅	4,800 \$/t	±100 \$/t	50
亜鉛	1,800 \$/t	±100 \$/t	500
インジウム	250 \$/kg	±100 \$/kg	600

※感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

為替、金属価格比較

	2015年度 平均		2016年度 前提		(参考) 直近
	上期	通期	上期	通期	4月平均
為替：(¥/\$)	121.8	120.1	115.0	115.0	109.4
銅：(\$/t)	5,653	5,215	4,800	4,800	4,851
亜鉛：(\$/t)	2,019	1,831	1,800	1,800	1,852
インジウム：(\$/kg)	369	302	250	250	244

セグメント別の状況 前年比

単位：億円

	2015年度実績			2016年度見込			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	983	63	61	970	68	68	△ 13	4	6
製錬	2,149	133	139	1,930	72	76	△ 219	△ 61	△ 63
電子材料	483	80	82	440	58	59	△ 43	△ 22	△ 23
金属加工	774	49	50	730	61	62	△ 44	11	11
熱処理	241	13	11	275	24	23	33	10	11
その他、全社・消去	△ 565	11	4	△ 495	7	2	70	△ 4	△ 2
計	4,065	350	350	3,850	290	290	△ 215	△ 60	△ 60

投資の状況

単位：億円

	2013年度 実績			2014年度 実績			2015年度 実績			2016年度 見込		
	設備投資 株式投資	研究開発 投資	合計									
環境・リサイクル	56	4	60	102	3	106	91	3	94	90	4	94
製 錬	30	9	39	24	27	51	52	45	97	90	24	114
電 子 材 料	31	26	58	22	26	48	38	29	68	40	31	71
金 属 加 工	28	4	33	21	5	27	28	5	34	40	6	46
熱 処 理	21	3	24	43	3	46	30	4	35	30	3	33
全社、その他	20	0	19	4	△ 1	3	7	△ 1	5	20	0	20
合計	188	46	235	218	65	284	249	86	336	310	69	379

(参考) 減価償却費

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 見込
環境・リサイクル	47	46	47	51
製 錬	43	34	29	39
電 子 材 料	26	25	24	30
金 属 加 工	22	22	20	23
熱 処 理	17	18	20	21
全社、その他	4	9	9	11
合計	162	155	151	177

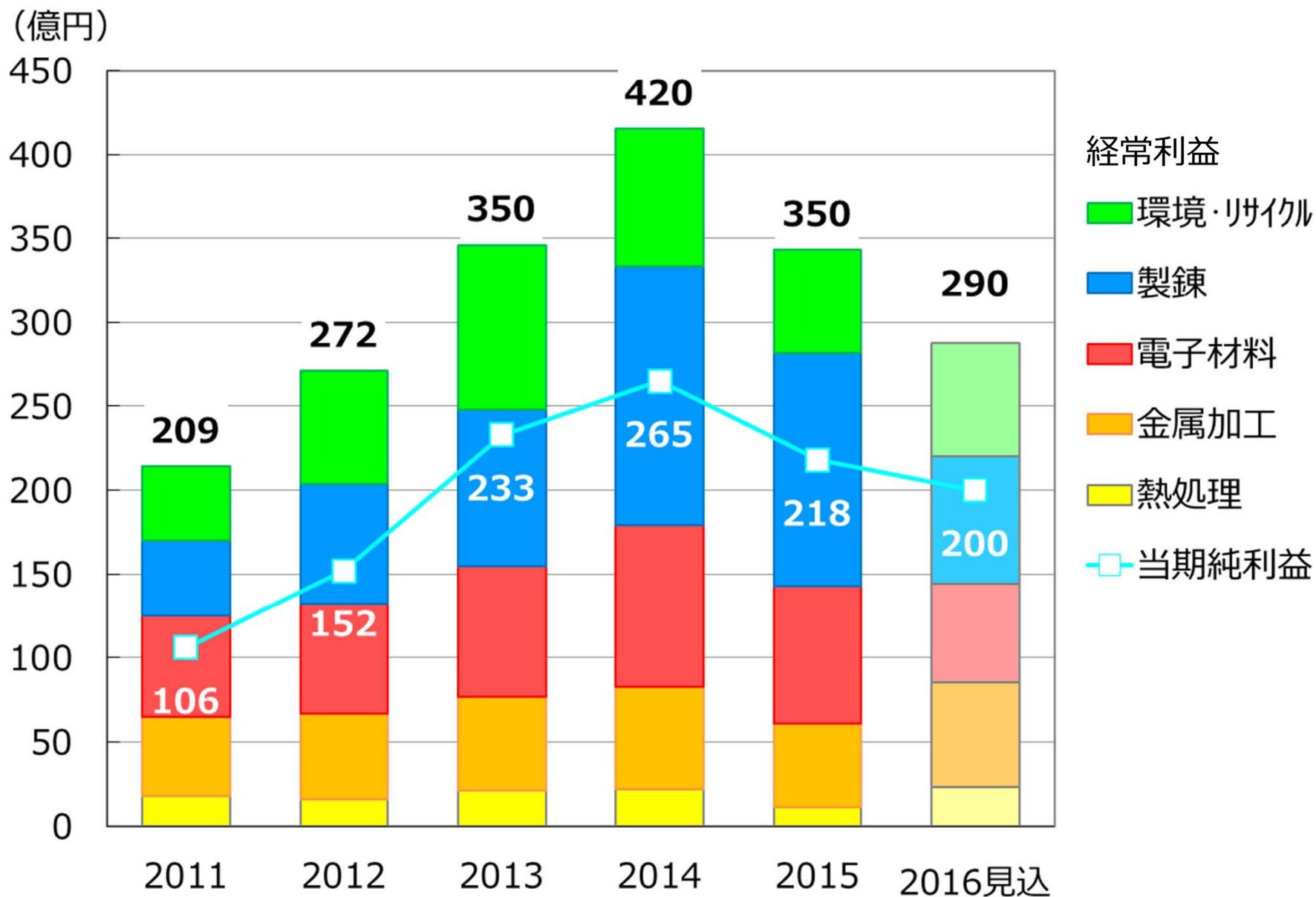
2015年度の主な投資

環境・リサイクル：低濃度PCB廃棄物処理の新炉建設

製錬：メキシコ鉱山開発

焙焼炉など亜鉛設備の新設・更新

経常利益・当期純利益の推移



(補足) 探鉱プロジェクトの状況について

単位：億円

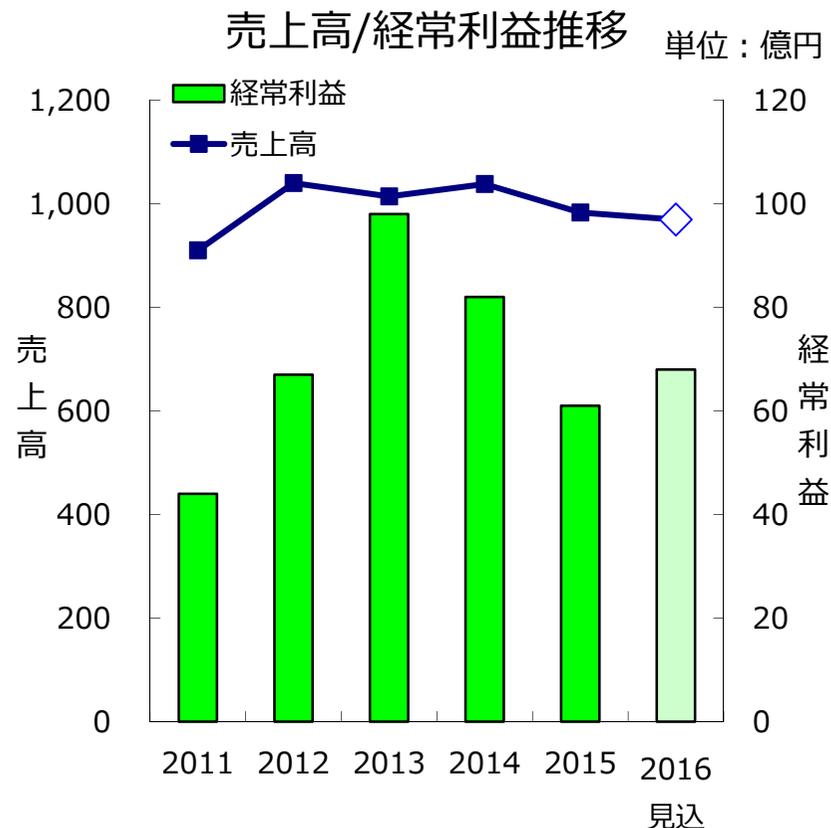
	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度見込			2017年度	2018年度	2019年度～
				上期	下期	合計			
アラスカ (Palmer)	探鉱 (総額22M \$ を負担)						(FS) → (開発・許認可) → (生産開始)		
営業費用 (探鉱費) ※1	3	8	7	2	5	7	数億円/年		
※1 出資比率50%超のため全部連結扱い									
メキシコ (Los Gatos)	FS (総額50M \$ 負担)						(開発・許認可) → (生産開始)		
営業外費用 ※2 (持分法投資損失)	-	-	16	8	2	10			
特別損失 ※3 (投資有価証券評価損)	-	12	15	-	-	-			
※2 出資比率15%以上 (2015.2Q～) : 持分法適用扱い									
※3 出資比率15%未満 (～2015.1Q) : 一般会社株式扱い									
■ 各段階利益における影響 (符号が△は損失)									
営業利益	△ 3	△ 8	△ 7	△ 2	△ 5	△ 7			
経常利益	△ 3	△ 8	△ 23	△ 10	△ 7	△ 17			
当期純利益	△ 3	△ 20	△ 38	△ 10	△ 7	△ 17			

・探鉱プロジェクトは順調に進捗
・メキシコ (Los Gatos) は、
2016年度に開発の判断を実施

各事業の状況と今後の取り組み

2016年度の見通し（前年同期比）

- ◆ **廃棄物処理** 売上高 上期：100% 下期：105%
(低濃度PCB廃棄物増集荷)
- ◆ **土壌浄化** 売上高 上期：100% 下期：130%
(大型公共投資などの活発化により案件増加)
- ◆ **リサイクル** 売上高 上期：85% 下期：90%
(金属価格下落によりリサイクル原料の発生量弱含み)



今後の取り組み

- **廃棄物処理**
 - ・秋田の処理施設立ち上げなど低濃度PCB廃棄物の増処理
 - ・一般廃棄物処理・骨材製造事業の拡大（メルテックいわき）
- **土壌浄化**
 - ・独自工法による自然由来汚染土壌の現地浄化推進
- **リサイクル**
 - ・グループ拠点活用による米国・アジアからの金属リサイクル原料増集荷
- **東南アジア**
 - ・廃棄物処理施設の増設、処理メニュー拡大に向けた取り組み推進

東南アジアでの廃棄物処理事業の拡大

■ 最終処理施設の増設

ミャンマー

- ・2015年12月開設、2016年度立上げ

インドネシア、タイ

- ・施設の新設・拡張のため事業用地を選定
環境影響評価に着手

■ 処理メニューの拡大

シンガポール

- ・焼却処理能力増強に向けて新炉建設に着手
→ 拡大する製薬・医療業界からの固形有害廃棄物を取り込み

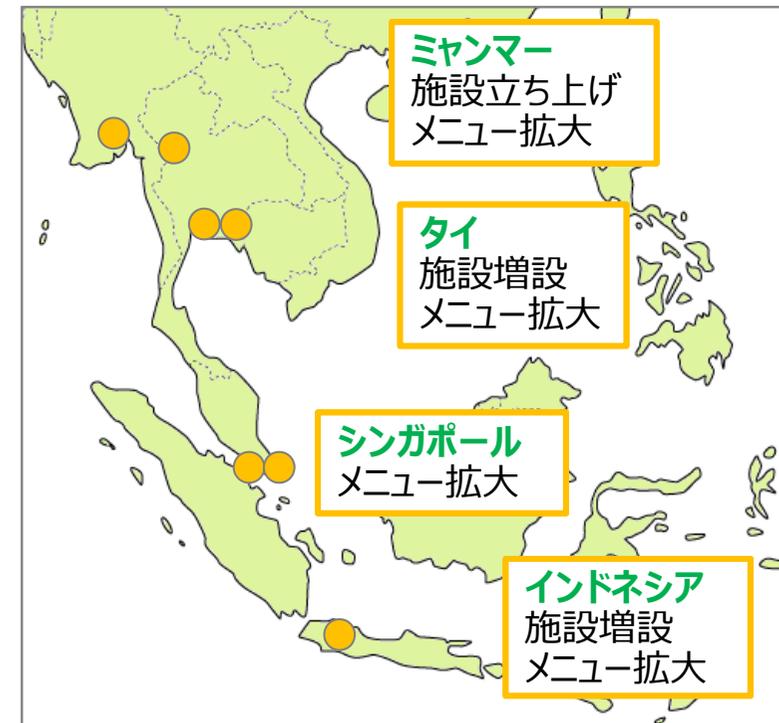
タイ

- ・新たにタイ企業へ出資、廃棄物処理事業の拡大を検討

インドネシア、ミャンマー

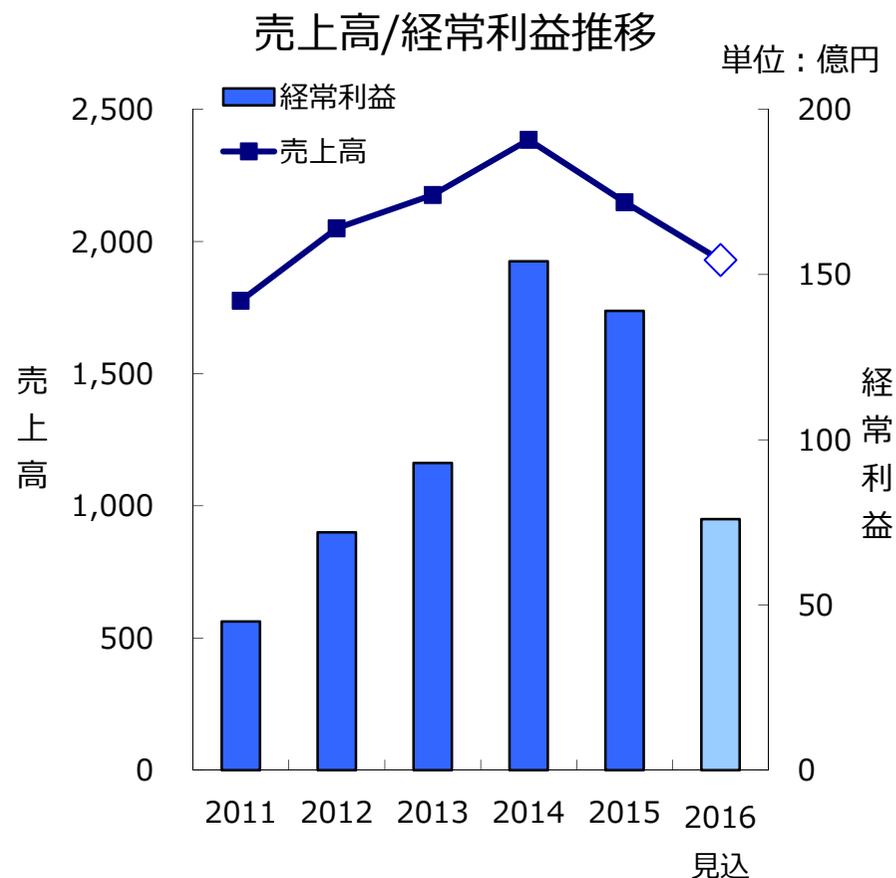
- ・既存拠点での焼却処理の事業性評価についてワーク中

東南アジアでの今後の事業展開



2016年度の見通し（前年同期比）

- ◆銅 販売量 上期:95% 下期:90%
(国内建設向けなど微減)
- ◆PGM 原料集荷量 上期:115% 下期:115%
(北米、欧州など海外集荷拡大)
- ◆亜鉛 販売量 上期:105% 下期:100%
(建設向け低調、自動車向け横ばい)



今後の取り組み

- 貴金属銅 ・小坂製錬の不純物対応力強化と副産金属回収能力の向上
- PGM ・海外からの集荷拡大と処理能力増強に向けた新炉建設
- 亜鉛 ・亜鉛の増産やエネルギー原単位削減など秋田製錬の競争力強化
- 資源 ・米国、メキシコにおける鉱山プロジェクトの推進

製錬事業の基盤強化

■ 秋田製錬の競争力強化

- ・焙焼炉など重要設備の新設・更新を段階的に実施
- ・亜鉛リサイクル原料の集荷・処理拡大（前年比+10%増）
- ・電力などエネルギー原単位削減によるコストダウン
- ・亜鉛の増産（2017年度22万トン/年）

■ 小坂製錬の収益力拡大とコンビナート機能強化

秋田製錬増産によるインプット増
リサイクル原料の多様化・処理拡大

小坂製錬の不純物負荷UP

- ・精製工程強化による不純物対応力向上
- ・スズや貴金属など金属回収の拡大

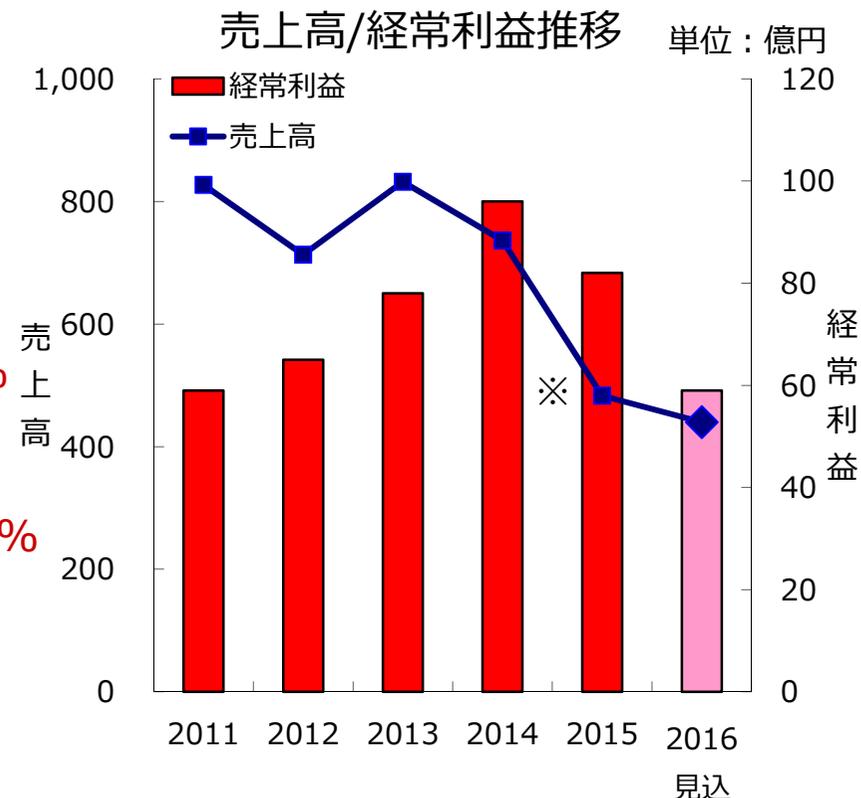


スズ地金（小坂製錬）

⇒ 秋田製錬とのコンビナート機能強化 + 金属回収増による収益力拡大

2016年度の見通し（前年同期比）

- ◆ **半導体** LED販売量 上期:75% 下期:115%
 (スマートフォン向け調整継続)
- ◆ **電子材料** 銀粉販売量 上期:110% 下期:115%
 (新エネルギー向け海外市場を中心に堅調)
- ◆ **機能材料** 記録材料売上高 上期:95% 下期:110%
 (アーカイブ用データテープ向け堅調)



※2015年度の売上高減少は、銀粉において銀地金代を含まない受託加工での取引へ一部変更されたことによる

今後の取り組み

- **半導体** ・センサ向けLEDの高特性化によるヘルスケア機器などへの用途拡大
- **電子材料** ・堅調な銀粉需要に向けた生産対応と新規導電材料の拡販
- **機能材料** ・データテープ向け記録材料などの設備増強による生産体制強化
- **新規開発** ・顧客認定の進む燃料電池向けなどのさらなる特性向上とサンプル対応

新規開発の取り組み

■ 燃料電池用電極材料

着実な特性向上により、認定銘柄が増加
→ 市場の立ち上がりに応じ、生産体制を強化

■ 新規導電材料の開発

電子部品の小型化
電極の薄膜・細線化
用途の広がり



導電材料への
要求の多様化

製法を使い分け、組成・粒子サイズ・形状を
組み合わせることで幅広いニーズに対応

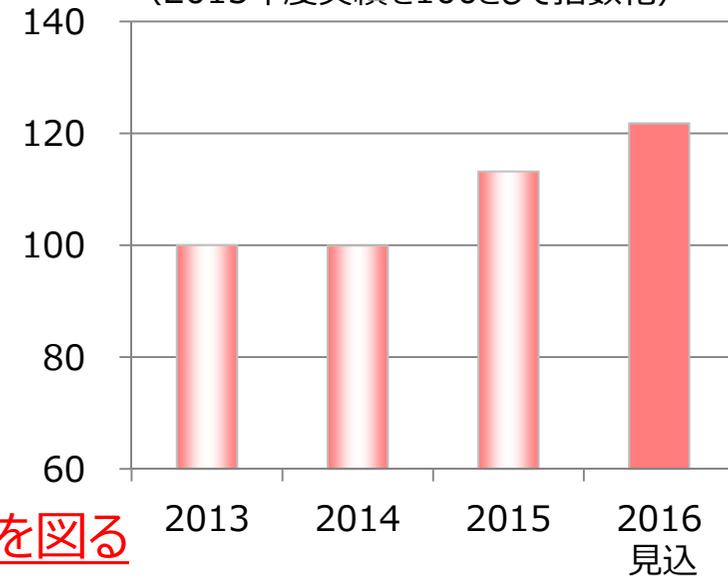
→ 電子回路部品・次世代タッチパネル向けなど
特性向上・用途開拓を進める

⇒ 成長市場に向けた開発を加速、早期事業化を図る

新規導電材料
(コンデンサなど向け合金粉)

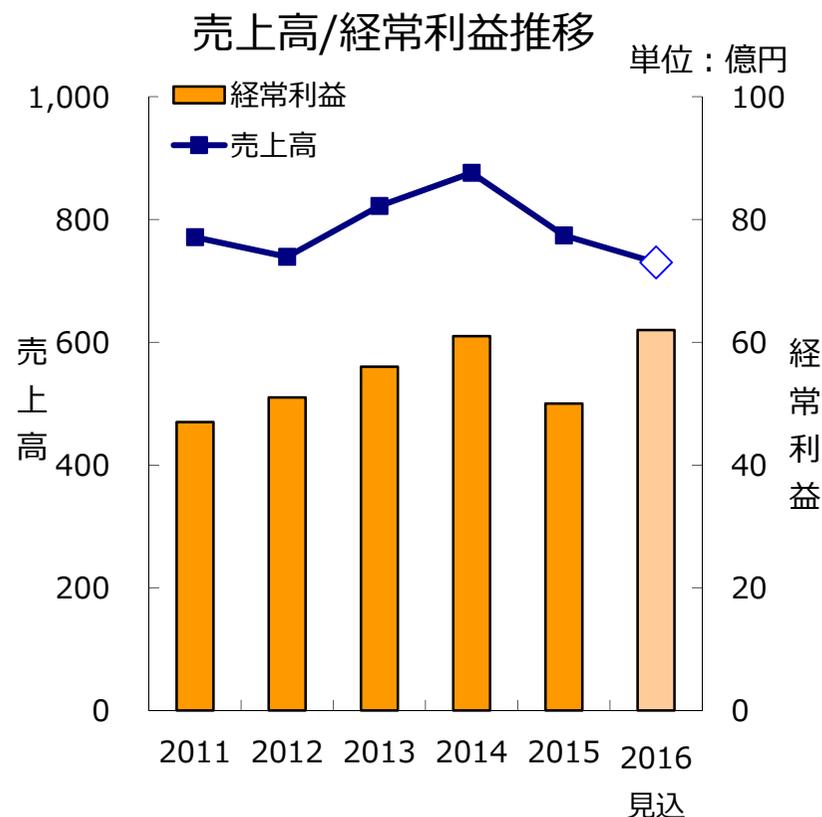


研究開発費の推移
(2013年度実績を100として指数化)



2016年度の見通し（前年同期比）

- ◆ **伸銅品** 販売量 上期:105% 下期:100%
 （自動車向け総じて堅調、PC・スマートフォン向け用途拡大）
- ◆ **貴金属めっき** 加工収入 上期:105% 下期:100%
 （車載用途は海外向けを中心に堅調）
- ◆ **回路基板** 売上高 上期:80% 下期:120%
 （産業機械向け・鉄道向けともに下期から回復傾向）



今後の取り組み

- **伸銅品**
 - ・ハイブリッドカーやスマートフォン向け高特性銅合金の開発・拡販
 - ・台湾のプレス加工工場の量産化、中国市場への拡販
- **貴金属めっき**
 - ・メキシコでの新工場建設、日本やタイでの生産性向上・増産
 - ・ハイブリッドカーなどの高圧端子向け新規めっきの開発・拡販
- **回路基板**
 - ・小型軽量で高放熱性を有する新規製品の車載向け用途拡大

DOWAメタニクス製品の拡販

■スマートフォン向け

- ・搭載部品の小型化・薄型化
- ・中国メーカー製品の高機能化

- ・薄さと強度を兼ね備えた高特性銅合金の拡販
- ・中国拠点の加工強化によるデリバリー対応力向上
- ・高速充電など新たなニーズを捉えた新合金の開発

■車載機器向け

センサー等の搭載数増 ⇒ 高導電材の
車内の情報通信量増 ⇒ ニーズ拡大

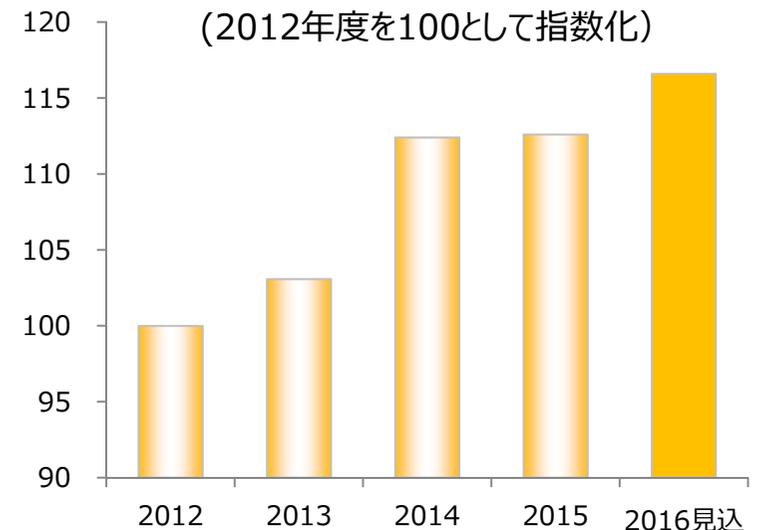
- ・導電性と強度のバランスに優れた
DOWAメタニクス製品の標準採用を目指す

DOWAメタニクスの圧延機



DOWAメタニクス製品 販売量推移

(2012年度を100として指数化)



2016年度の見通し（前年同期比）

◆工業炉 売上高 上期:100% 下期:130%

◆熱処理加工 売上高 上期:105% 下期:110%

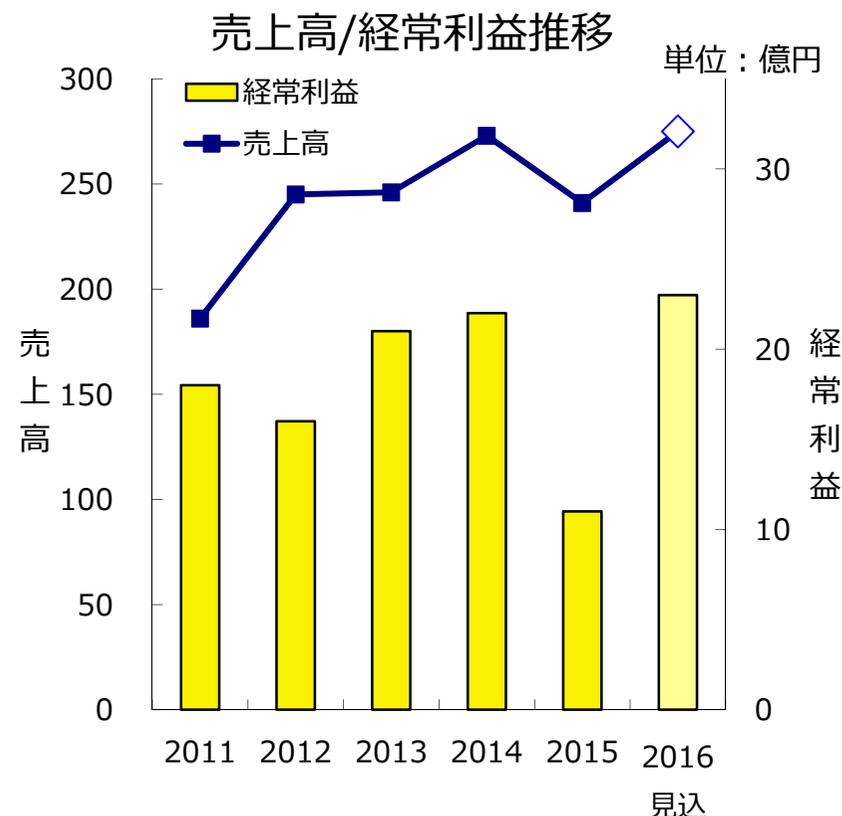
（自動車向け：国内は回復傾向、海外は北米・

中国・インドなどを中心として緩やかに拡大

建設機械向け：国内外ともに低調）

今後の取り組み

- 海外事業
 - ・インドや米国、メキシコなど成長地域における顧客開拓と拡販
 - ・メキシコにおける熱処理工場操業開始、メンテナンス事業本格立ち上げ
 - ・東南アジアでの部品の現地調達化推進によるメンテナンス事業強化
- 国内事業
 - ・浜松北工場の機能強化、市場動向に対応した拠点統合
- 研究開発
 - ・小型熱処理設備の商品化、新たな表面処理技術の開発



インドでの熱処理事業拡大

■ 熱処理加工事業の拡充

バンガロール

- ・ 新工場建設と設備導入を開始
- ・ 既存工場の生産能力を増強

アーメダバード

- ・ 新工場建設を開始

⇒ インドでの能力増強・エリア拡大を進め、
現地で増加する自動車向け需要を取り込む

■ 工業炉事業の強化

- ・ アライアンスなどによる製品ラインナップの拡充
アルミ溶解炉の製造・販売を開始
- ・ 製品やメンテナンス部品の輸出拡大

⇒ 熱処理設備のグローバル製造拠点として機能を強化

インドの拠点
(国内全7拠点体制へ)



インド製の熱処理設備

